

# 週報

国際ロータリー第 2660 地区

令和 2 年 8 月 11 日



## 豊中ロータリークラブ

第 2893 回例会  
第 2476 号

広めよう ロータリーの心 地域とともに

創立 1959 年 6 月 16 日

2020～21 年度  
国際ロータリー会長  
ホルガー・クナーク  
(ロータリーは機会の扉を開く)

Rotary



2020.7～2021.6  
会 長 岩本洋子  
副 会 長 小川佳伸  
幹 事 宮田幹二  
雑誌・広報・会報委員長  
吉川秀樹

本日（8 月 11 日）のプログラム

「子ども食堂について」

居酒屋チェーン「楽八」代表取締役  
北森 勝司 様

卓話担当：小川佳伸

～クラブ奉仕フォーラム～

次回（8 月 25 日）のプログラム

「今後の経済環境と投資テーマ

2020 年コロナ禍において」

卓話担当：平野和枝

～移動例会～

### ☆会長の時間☆

「最近の裁判所事情」

2020-21 年度 会長 岩本洋子

最近、日本国で裁判が増えているかということ、地方裁判所の民事事件は減っています。

貸した金を返せとか、家を明け渡せとかいう一般の民事事件は減っています。

一方、裁判が激増しているのが家庭裁判所の事件です。日本で毎年、亡くなる人が 130 万人を数え「多死社会」と言われています。それに伴って相続事件は増加しています。

離婚事件も増加しています。平成 30 年の婚姻数が 59 万組で、離婚は 20 万組です。単純に言うと 3 組に 1 組は離婚するということで、離婚事件は激増しています。子供の親権の取り合い、養育費の問題、財産分与、年金分割と裁判の理由は山積みです。

高齢化社会で認知症の人が増えて、後見人選任事件も家庭裁判所の事件です。私も後見人に選任されている事件が 1 件あるのですが、老人ホームの充実と介護保険でヘルパーさんに助けてもらっています。

今は、家庭裁判所はお部屋が足りなくて、取り合い状態です。

今年はコロナで 3 月～6 月の裁判が取消、中止になりました。裁判が解決したわけではないので、3 月～6 月分がこの 7 月から 9 月に入っていて、夏休みは無さそうです。

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

事務局・例会場：〒560-0021 豊中市本町 3 丁目 1 番 16 号 ホテル アイボリー内  
TEL 06-6858-1551 FAX 06-6857-0011

例 会 日 時：毎週火曜日 12 時 30 分より

事 務 局：10 時～16 時（土日祝を除く）

H P ア ド レ ス：www.sun-inet.or.jp/~jtrc2660/

メー ル ア ド レ ス：[jtrc2660@sun-inet.or.jp](mailto:jtrc2660@sun-inet.or.jp)

## 例会出席報告☆

	第2892回	第2889回
例会日	8月4日	7月7日
① 会員数 A	38	38
(内出席免除者)	7	7
② 出席義務者数	31	31
③ 出席義務者出席数	20	24
④ 出席免除者出席数	5	5
⑤ メイクアップ数		1
⑥ 出席義務者欠席数	11	7
出席率 %	69.44%	83.33%

出席率(前回) = ③+④/②+④ 出席率(前々々回) = ③+④+⑤/②+④

## 幹事報告

- 国際ロータリー第2660地区より  
「クラブ国際奉仕委員長会議の案内」が届きました。  
「短期青少年海外派遣及び児童を対象とした奉仕活動についてのアンケートのお願い」が届きました。
- 日本赤十字血液センターより  
「血液センターニュース304」が届きました。
- 豊中市環境部環境政策課より  
「とよなかエコ市民賞募集のお知らせ」が届きました。

## 掲示板

- クラブ奉仕フォーラム  
日時：8月11日(火) 本日例会終了後  
場所：ホテルアイボリー3F 例会場  
  
※8月18日(火)は定款により休会です。
- 青少年奉仕合同委員長会議  
日時：8月22日(土) 13:30~16:30  
場所：大阪YMCA国際文化センター2階
- 移動例会  
日時：8月25日(火) 12:30~  
場所：豊中市立文化芸術センター  
〒561-0802 大阪府豊中市曾根東町3-7-2  
TEL: 06-6864-3901
- 職業奉仕委員長会議  
日時：9月5日(土) 13:00~15:30  
場所：大阪YMCA国際文化センター
- ロータリー財団セミナー  
日時：9月12日(土) 14:00~17:00  
場所：大阪YMCA国際文化センター
- 豊中RC秋の親睦ゴルフ  
日時：9月27日(日) スタート9:15 IN  
場所：関西カントリークラブ  
京都府亀岡市西別院町柚原東深谷9番地  
Tel 0771-27-2131

## 8月4日のニコニコ箱報告

- ・皆出席1年を頂いて 原会員
- ・誕生日祝いを頂いて 都井会員
- ・家内の誕生日祝いを頂いて 武枝、小川各会員
- ・入会記念祝いを頂いて 矢野、森本、福盛、小牧各会員
- ・前会長章を頂いて 松山会員
- ・小川先生にお世話になりました。 松本拓朗会員

### 豊中RC前奨学生

Wong Ting Samさん(平成29年10月1日~令和元年9月末までの2年間)より事務局に連絡がありました。(以下)

皆様お元気でお過ごしでしょうか、コロナ禍での例会は続けていらっしゃるでしょうか？コロナの状況は全然よくなりません。皆様におかれましてはどうぞお体に気を付けてください。

私は、今春より島津製作所に就職し、今月に研修を終え、そろそろ本番の仕事に入ります。因みに、研修期間中に開発最優秀賞と最優秀班賞をいただきました。つらい研修期間中の励みになりました。これは、諸先輩方のご指導の賜物と感謝しております。

コロナの状況が良くなりましたら、是非皆様とお会いしたいと思っております。それまで、どうかお体をご自愛いただきますようお願いいたします。

2020年8月5日

Wong Ting Sam

## お知らせ

- ・8月20日(木)と22日(土)に予定しております情報集会の開催は中止いたします。

## 副幹事・副SAA当番

8月副幹事 谷野 桂子 会員  
8月副SAA 原 和永 会員

## 8月受付当番

チーフ：米田 眞会員  
8月11日 谷野桂子会員、平野和枝会員  
8月25日 志水清紀会員、田畑榮彦会員

「私の留学生生活」

豊中 RC 奨学生 Li Jiyao



私は、2019年3月の1ヶ月間、オランダの University of Groningen の Faculty of Behavioral and Social Sciences へ短期訪問し、Psychometrics and Statistics group の Casper Albers 教授と心理統計学について共同研究を行った。人間の行動や社会科学をターゲットとする心理統計学はヨーロッパ発祥の統計分野であり、そして数多くの有名な心理学者が在籍する University of Groningen はこの分野での名門校である。Casper 先生自身の専門分野は Applied Statistics と Data Visualization であり、今回は心理統計分野でよく用いられている多変量解析モデルについて共同研究を進めた。

オランダ滞在中は、Casper 先生と大学のオフィスで週1回1時間ほど個別面談を行い、他の時間ではメールで議論を行った。主に、Nonparametric Bayes 手法に関するトピックについての研究を行った。このテーマを選んだ理由は、私は昨年度 Non-parametric Bayesian Clustering における変分ベイズアルゴリズムを研究した後、多変量解析法のノンパラメトリックベイズ化に深く興味を持つようになったからである。基礎工学研究科へ進学前、行動統計科学を学んでいた自分は主成分分析、因子分析など様々な多変量解析モデルを勉強した。しかし今まで研究されてきたこれらのモデルはいずれもパラメトライズされた分布を使う手法である。現実データに適合する分布がどのようなものか事前に決めることが難しく、分布の設定を誤ると解析手法の性能が大きく低下してしまう。ベイズ推定を用いる事により、逐次的にデータを集めることで予め指定した分布を更新し、事前に設定した分布に依存しない推定ができる。ベイズ推定は分布の誤特定に対してロバストである一方で、各種の解析手法でハイパーパラメータを予め指定する必要がある。ハイパーパラメータの特定まで自動で行うことができる方法として、ノンパラメトリックベイズが近年注目を集めている。パラメトリックモデルをロバスト化という強力な結果があるとはいえ、近年の研究成果の殆どはクラスタリングと因子分析に集中している。Casper 先生との議論を通じて、最終的には近年心理統計学の分野で極めて重要な項目反応理論モデルを選んで、ノンパラメトリックベイズ化の研究を展開した。

私は滞在中に2つのイベントに参加した。一つ目は昨年度まで副教授である Casper 先生が教授への昇進祝いパーティに参加した。二つ目は Faculty of Behavioral and Social Sciences の先生方及び大学院生達と一緒に先生の昇進のお祝いのボウリング大会をした事だ。

昇進祝いパーティの中で最も印象残っていたのは、Casper 先生の学生向きのスピーチであった："To all my students, working with you is to see you grow from a student to an independent researcher, which I found most impressing for this job."この言葉を聞いて、現在学生である自分の事を考えてみると、自分も日々の努力を積み重ねれば、いつか研究者の卵から一人前の研究者になれるのではないか。そう思うと、博士課程への進学を目の前にした当時の信念と情熱が再び蘇ってきた。

私は、ヨーロッパ人にとっても好意的なイメージを抱いている。今回の短期訪問で、向こうの学生に「一緒に Casper 先生のお祝いのボウリングしませんか」と誘われた。これは自分にとってかなり新鮮なお祝い方法であり、とても楽しい時間を過ごすことが出来た。そして最も印象に残ったのは、ヨーロッパ本土の様々な国以外に、インドやオーストラリアなど、世界中色々な所から学生が来ているという事である。400年以上の歴史ある名門校である University of Groningen の偉大さを感じながら、色々な大学院生と交流した。日本の博士課程と違い、向こうの学生は複数人で同じ研究プロジェクトに参加する事が多い。そして、卒業要項である学術論文も、複数の学生が同じ論文を使用可能である。これは、研究中のコミュニケーションを重視しているという理由かららしい。また、複数の人が互いに得意とする内容を取りこむ事で、作用効率を向上させることができるという点もある。自分は共同研究をやる事が少なく、あまり慣れていない部分もあるが、向こうの学生と先生は、このようなスタイルにとっても慣れている感じがした。これは普段の研究でもグループワークだからではないかと感じた。

訪問中では、私は積極的に Casper 先生とコミュニケーションを取り、議論を繰り返した。やや共同研究が不慣れな事もあって、最初の段階では効率が悪い部分もあったが経験を積むにつれて最後ではスムーズに進める事ができた。今回の経験は将来的にも非常に役に立つと感じた。これから共同研究を行う際、今回の経験を活かしていきたい。また、心理統計学者と様々な議論を通じて感じたのは、近年数理統計学の様々な進展はまだまだ心理統計の領域には広がっていないという事である。理論研究を通じ心理統計学の各手法を向上させる事は、自分の今後の課題の一つであると強く思っている。